

## 工学研究科博士前期課程における研究指導の流れについて

博士前期課程における、修士学位取得までの研究指導の流れは、以下のとおりです。

年次	時期	内容
1年次	4月	研究科委員長によるガイダンスにおいて、知的財産権の重要性について指導を受ける。 指導教授によるガイダンスにおいて、今後の研究計画について指導を受ける。 指導教授が担当する専修科目と「文献研究ⅠA」・「文献研究ⅠB」、「研究実験ⅠA」・「研究実験ⅠB」を履修するとともに、適切な授業科目を指導教授の助言を受けて決定し、履修する。
	9月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、指導教授の確認を受ける。
	11月 ～3月	各専攻または各指導教授ごとに中間報告会を実施し、進捗状況について発表する。
2年次	4月	1年次に引き続き、指導教授が担当する「文献研究ⅡA」・「文献研究ⅡB」、「研究実験ⅡA」・「研究実験ⅡB」を履修し、指導教授から研究計画について指導を受ける。
	12月	修士論文題目決定届を提出する。
	1月	修士論文の提出
	2月	審査委員による口頭試問を含む最終試験を実施する。 その結果に基づき研究科委員会が合否を決定する。
	3月	学位の授与

## 工学研究科博士後期課程における研究指導の流れについて

博士後期課程における、博士学位取得までの研究指導の流れは、以下のとおりです。

年次	時期	内容
1年次	4月	指導教授による個別面談を行ったうえで1年次研究計画を決定する。 また、指導教授が担当する専修科目を履修する。
	5月 ～1月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、 指導教授の確認を受ける。
2年次	4月	1年次に引き続き、指導教授から研究指導計画に基づき指導を受ける。
	5月 ～1月	個別の研究テーマに基づく研究の進捗状況について報告し、 指導教授の確認を受ける。
3年次	4月	2年次に引き続き、指導教授から研究指導計画に 基づき指導を受ける。
	11月	指導教授に予備審査願、博士論文を提出する。 また、各専攻において予備審査会を実施する。
	1月	公開説明会の開催、学位申請の手続き
	2月	本審査、最終試験を実施する。 その結果に基づき研究科委員会は学位授与の可否を審議決定する。
	3月	学位の授与

# 論文審査基準及び学位授与方針（学習成果）の対応表

（2019年10月16日 工学研究科委員会承認）

## 工学研究科機械工学専攻博士前期課程

### 工学研究科機械工学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

#### 【共通（工学）】

- ・工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）
- ・物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）

#### 【機械工学専攻（工学）】

- ・機械工学の原点である「物を作る」技術と理論を中心に据えながら、現在の機械工学の幅広い要請に応えるべく、高度な専門知識と技術・技能とを有している。（DP3）

論文審査基準	学位授与方針との対応関係		
	DP1	DP2	DP3
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○	○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○	
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○	
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○	○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○	
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○	○

工学研究科電気工学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

<p>【共通（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）</li> <li>物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）</li> </ul> <p>【電気工学専攻（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最新の研究課題に取り組みながら、さらに高度な専門知識や技術を身につけ、大学、公的機関、企業等で自立して研究活動を行うことができる能力を有している。（DP3）</li> <li>教育の場や国際社会で高い倫理観や国際的視野を持って活躍できる。（DP4）</li> </ul>
---

論文審査基準	学位授与方針との対応関係			
	DP1	DP2	DP3	DP4
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○		
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○		
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○		
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○	
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○	○	
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○		
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○	○	○

工学研究科情報学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

<p>【共通（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）</li> <li>物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）</li> </ul> <p>【情報学専攻（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確かな専門知識と幅広い視野を備え、ICTのさらなる発展に寄与する能力を有している。（DP3）</li> </ul>
--

論文審査基準	学位授与方針との対応関係		
	DP1	DP2	DP3
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○	○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○	
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○	
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○	○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○	
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○	○

## 工学研究科建築学専攻博士前期課程

### 工学研究科建築学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

#### 【共通（工学）】

- ・工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）
- ・物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）

#### 【建築学専攻（工学）】

- ・創造性と幅広い視野を身に付けた建築家・建築関連技術者として社会に貢献できる。（DP3）
- ・物事を理論的に思考し、自ら問題点を発見し解決するための基本的な能力を有している。（DP4）

論文審査基準	学位授与方針との対応関係			
	DP1	DP2	DP3	DP4
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○		○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○		○
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○		○
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○	
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○	
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○	○	
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○		
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○	○	

## 工学研究科土木工学専攻博士前期課程

### 工学研究科土木工学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

<p>【共通（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）</li> <li>・物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）</li> </ul> <p>【土木工学専攻（工学）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な知識と技術、何事にも柔軟に対応できる応用能力を身に付けている。（DP3）</li> <li>・安心・安全な社会の形成のために貢献することができる能力を有している。（DP4）</li> </ul>
---

論文審査基準	学位授与方針との対応関係			
	DP1	DP2	DP3	DP4
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○	○	○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○		
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○		
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○	○	○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○		
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○	○	○

## 工学研究科物質生命科学専攻博士前期課程

### 工学研究科物質生命科学専攻博士前期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

#### 【共通（工学）】

- ・工学を中心とした学術の理論と応用能力を身につけ、豊かな人間性を有している。（DP1）
- ・物事を総合的に判断できる能力を有している。（DP2）

#### 【物質生命科学専攻（工学）】

- ・特定の専門分野だけに偏らない広い視野と研究能力を身に付けている。（DP3）
- ・専攻の専修分野における高度な専門知識と技術を修得している。（DP4）

論文審査基準	学位授与方針との対応関係			
	DP1	DP2	DP3	DP4
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱うものとして適切か。	○	○	○	○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○		○
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○		○
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来のものに意義ある成果が付与されているか。	○	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展に寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○		○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、何らかに寄与する可能性があるか。	○	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○		○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	○		
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。	○	○		○



工学研究科総合工学専攻博士後期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

【共通（工学）】

- ・高度な専門能力を有する人材に留まらず、指導的立場に立つ能力を有している。（DP1）

【総合工学専攻（工学）】

- ・複数の専門領域や境界領域にまたがる将来の新しい先端的な技術分野で指導的な役割を果たすことができる能力を修得している。（DP2）

論文審査基準	学位授与方針との対応関係	
	DP1	DP2
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱う先端的課題として適切な設定がされているか。	○	○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○	○
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○	○
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来の先行研究を十分に把握した上で意義ある成果が付与されているか。	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展や知見の拡大などに寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、将来における発展・拡大に寄与する可能性があるか。	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○	○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○	
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。また、論文内容に直接的、間接的に関係のある学術論文が、国内外の学会誌・論文誌・ジャーナル等に筆頭著者として掲載されているか。	○	○

## 工学研究科建築学専攻博士後期課程

### 工学研究科建築学専攻博士後期課程の学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）

【共通（工学）】

高度な専門能力を有する人材に留まらず、指導的立場に立つ能力を有している。（DP1）

【建築学専攻（工学）】

- ・創造性と幅広い視野を身に付けた建築家、建築関連技術者・研究者として社会に貢献している。（DP2）
- ・高度な研究テーマの選定から成果の発信に至る研究活動を自ら遂行する能力を有している。（DP3）

論文審査基準	学位授与方針との対応関係		
	DP1	DP2	DP3
1 分野の妥当性・適切性 論文の内容は、工学研究科の当該専攻で扱う先端的課題として適切な設定がされているか。	○		○
2 記述の妥当性 論文としての表現（題目的確性、章節項などの構成、文章作法、図表作法など）は適切で明確か、理解困難な表現はないか、論文の位置づけがなされているか、適切な考察がおこなわれているか、参考文献や文献の引用は適切におこなわれているか。	○		○
3 信頼性 内容に矛盾や誤りはないか、論理の展開に無理はないか。	○		○
4 独創性・新規性 従来にはない新しい考え方、理論、実験結果、技術、方式、製品や作品の製作（開発）、工学に関する教育内容、関連事例などが示されているか、従来の先行研究を十分に把握した上で意義ある成果が付与されているか。	○	○	○
5 工学的有用性、工業的・産業的有用性または工学の教育分野における有用性 論文の成果が工学・技術あるいは工業・産業分野における発展や知見の拡大などに寄与するか。または、工学の教育に寄与するか。	○	○	○
6 将来の発展の可能性 得られた理論、技術、知見、手法、作品等が工学・工業（産業）・教育分野において、将来における発展・拡大に寄与する可能性があるか。	○	○	○
7 完結性 論文として、まとまった成果が記述されており、独立したものとして評価できるか。	○		○
8 研究倫理の遵守 論文内容に倫理上の問題がないか。例えば、データの捏造、著作権法上の問題などがないか。	○		○
9 学内・学外（国内・海外）での発表経験の有無 学内外で開催される研究発表会での筆頭著者としての発表、またはデザインコンペへの応募があるか。また、論文内容に直接的、間接的に関係のある学術論文が、国内外の学会誌・論文誌・ジャーナル等に筆頭著者として掲載されているか。	○	○	○